

植民地期日本関係資料デジタル化の現在：台湾出張報告

木下 雅弘 (関西館アジア情報課)

はじめに

台湾の図書館等には、日本の植民地期 (1895-1945 年。以下「植民地期」とする。) に存在した資料所蔵機関の蔵書 (以下「日本関係資料」とする。) が引き継がれており、その中には稀覯書も含まれる。これらは早くからデジタル化の対象となっており、デジタルアーカイブを通じ日本国内から閲覧できる資料も多い。

筆者は 2025 年 3 月に台湾の図書館等を訪問し、主に電子図書館業務について担当職員にインタビューを行う機会を得た。本稿ではその際に得た情報に基づきつつ、各機関における「日本関係資料のデジタル化状況」を紹介したい。なお、訪問機関及び訪問日は表 1 の通りである。

表 1 訪問機関 (所在地) 及び訪問日

訪問機関 (所在地)	訪問日
中央研究院台湾史研究所 档案館 (台北市)	3 月 5 日 (水)
国家図書館総館 (台北市)	3 月 6 日 (木)
国立台湾図書館 (新北市)	3 月 7 日 (金)
国立台湾大学総図書館 (台北市)	3 月 10 日 (月)
国立公共資訊図書館 (台中市)	3 月 11 日 (火)

1 中央研究院台湾史研究所档案館

中央研究院は総統府直屬の研究機関であり、文理問わず様々な分野の研究所を擁している。そのうち台湾史の研究を専門とするのが 2004 年に設立された台湾史研究所である。今回訪問した档案館 (写真 1) は 2009 年に設立され、台湾関係資料の収集・保存、所蔵資料の組織化、デジタル化及びデジタルアーカイブの構築といった役割を担っている²。同館の

所蔵資料数はデジタルデータを含め約 42 万点に及び、個人文書 (例：日記、書簡、写真)、家族・民間文書 (例：家系図、往復書簡、土地の契約書) 及び植民地期における機関・団体文書 (例：銀行の融資関係書類、調査報告書) の収集を重視している点に特色がある。また、他機関所蔵資料についても、精力的に複製物の収集を行っている。



写真 1 台湾史研究所档案館の閲覧室

同館では、所蔵資料の検索・閲覧システムとして「台湾史档案資源系統」³を公開している。デジタル化済みの資料であれば、同システム上で本文画像も閲覧できる。ただし、収録資料の公開範囲は三段階に分かれており (表 2)、オンラインでの画像閲覧にはアカウント登録が必要となる⁴。

表 2 「台湾史档案資源系統」収録資料の公開範囲

公開範囲	詳細	資料例
オンライン	アカウント登録後、オンライン閲覧・印刷可	主に機関・団体文書
館内限定 (印刷可)	館内でのみ閲覧・印刷可	主に個人・家族文書

URL の最終アクセス日、文中の各表に記載した資料数の確認日はいずれも 2025 年 5 月 21 日である。また、写真は筆者撮影による。

¹ 台湾の各機関が所蔵する日本関係資料の状況については、以下の文献に詳しい。

王麗蕉、黄燕秋、李依陵「臺灣現存日治時期圖書館舊藏概況及其數位典藏發展」『國家圖書館館刊』101 年第 1 期, 2012, pp.1-21. <<https://nclfile.ncl.edu.tw/files/201511/be99f29a-a892-4e53-af55-94f7e2ca376d.pdf>>

齊藤まや「台湾に所在する植民地期日本関係資料の現況と課題」『アジア情報室通報』第 12 巻第 4 号, 2014, pp.2-7. <<https://doi.org/10.11501/8837153>>

趙儀芳『臺灣高中圖書館日治時期舊籍館藏典藏典與利

用調査研究』国立政治大學圖書資訊學數位碩士在職專班碩士論文, 2020. [378]p. <<https://nccur.lib.nccu.edu.tw/handle/140.119/131974>>

² 「關於本館」中央研究院臺灣史研究所档案館

<https://archives.ith.sinica.edu.tw/about_list.php>

³ 臺灣史档案資源系統

<<https://tais.ith.sinica.edu.tw/>>

⁴ 公開範囲は「系統簡介」に、アカウント登録方法は「常見問答」に説明が記載されている。

「系統簡介」臺灣史档案資源系統

<<https://tais.ith.sinica.edu.tw/introduction.html>>

「常見問答」臺灣史档案資源系統

<<https://tais.ith.sinica.edu.tw/qa.html>>

館内限定 (印刷不可)	館内閲覧可だが 印刷不可、書き 写しは可	主にプライバシー に関わるもの (日記、手紙等)
----------------	----------------------------	--------------------------------

同館では、台湾総督府図書館、南方資料館⁵旧蔵書を含むデジタルアーカイブ「台湾研究古籍資料庫」⁶の運営も行っている。これらの日本関係資料は国立中央図書館台湾分館（現在の国立台湾図書館）が引き継いでいたが、未整理の資料も残っていた。1999年、その利活用のため、中央研究院は同館と協定を結び、未整理の旧蔵書等15万点余りを預かり、整理の上で閲覧に供した⁷。「台湾研究古籍資料庫」では、その一部がデジタル化され閲覧可能となっている。本文画像も、アカウント登録を行えばオンラインで閲覧できる⁸。

近年の大きな動きを二つ挙げる。一つは、2022年7月のデータベース「台湾総督府旅券系統」⁹の正式公開である。台湾史研究所では「台湾文史資源海外徴集与国際合作計画」に基づき、2010年から植民地期に発行された旅券（パスポート）交付・返納記録の複製物収集を進めてきた¹⁰。その画像は以前から「台湾史档案資源系統」内のコレクション「台湾総督府旅券下付及返納表」¹¹として公開されていたが、「台湾総督府旅券系統」ではこのコレクションのメタデータを詳細化し、多様な切り口から検索できるようにしている。

もう一つは、2024年3月のデジタルアーカイブ「台湾文献全文資料庫」¹²の公開である。既存のデジタルアーカイブ¹³をベースとして、新規にデジタル化された植民地期刊の新聞3種（表3）を統合したものである。

表3の各紙は、記事のタイトルと著者名が

テキスト化され（社説等一部の記事は本文もテキスト化済み）、検索可能となっている。画像は全てオンライン公開されており、閲覧に際しアカウント登録も不要である。

表3 「台湾文献全文資料庫」収録紙

タイトル	収録対象年(欠号あり)
台湾民報	1923-1930
台湾新民報	1930-1933, 1938-1941
興南新聞	1941-1944

2 国家図書館

台湾の図書館法では図書館を5つの館種に区分するが¹⁴、その内の「国家図書館」に当たるのが国家図書館（写真2）であり、台湾の納本図書館でもある¹⁵。なお、後述の国立台湾図書館、国立公共資訊図書館は「公共図書館」に当たり、国家図書館とは館種が異なる。



写真2 国家図書館総館

国家図書館が提供する近現代文献のデジタルアーカイブには、主なものとして「台湾華文電子書庫」¹⁶と「台湾記憶」¹⁷がある。前者は1911年から1949年の間に出版された中国語

⁵ 台湾総督府が、実業家・後宮信太郎の寄付を基に設立した資料収集機関であり、日本の南進政策推進のため南方関係資料の収集に当たった。

鍾淑敏「南方資料館：戦前東南アジア資料的寶庫」『台湾學通訊』第97期，2017，pp.17-19. <<https://www.ntl.edu.tw/wSite/ct?xItem=61088&ctNode=2818&mp=1>>

⁶ 臺灣研究古籍庫 <<https://rarebooks.ith.sinica.edu.tw/sinicafrsFront99/index.htm>>

⁷ 以下のページに記載のとおり、これらの原資料はすでに国立台湾図書館に返却されている。「合作典藏日治古籍簡介」中央研究院臺灣史研究所檔案館，2010.7.7. <https://archives.ith.sinica.edu.tw/collections_list_02.php?no=17>

⁸ 以下のページにアカウント登録方法の説明が掲載されている。

「常見問題」臺灣研究古籍資料庫 <<https://rarebooks.ith.sinica.edu.tw:8443/sinicafrsFront99/faq.htm>>

⁹ 臺灣總督府旅券系統 <<https://passport.ith.sinica.edu.tw/>>

¹⁰ 以下のページに記載のとおり、原本は主に日本の外交史料館が所蔵している。

「系統簡介」臺灣總督府旅券系統 <<https://passport.ith.sinica.edu.tw/introduction.html>>

¹¹ 「臺灣總督府旅券下付及返納表」臺灣史档案資源系統 <<https://tais.ith.sinica.edu.tw/browse-0000284375.html>>

¹² 臺灣文献全文資料庫 <<https://taicool.ith.sinica.edu.tw/>>

¹³ 臺灣文献叢刊資料庫 <<https://tcss.ith.sinica.edu.tw/>>

¹⁴ 「圖書館法」全國法規資料庫 <<https://law.moj.gov.tw/LawClass/LawAll.aspx?PCode=H0010008>>

¹⁵ 台湾の図書館法では、国家図書館以外に立法院国会図書館への納本も規定されている。

¹⁶ 臺灣華文電子書庫 <<https://taiwanebook.ncl.edu.tw/>>

¹⁷ 臺灣記憶 <<https://tm.ncl.edu.tw/>>

資料を主な対象とする一方、後者は台湾の歴史に関する資料を幅広く収録しており、日本関係資料も多く含む。

同館では、台湾内の他機関が所蔵する資料のデジタル化も推進しており、これらのデジタルアーカイブを通じ本文画像を公開している。表4に「台湾記憶」での例を示す。

表4 「台湾記憶」収録コレクションの例

名称	収録対象	数量(点)
館蔵日治時期出版図書	国家図書館所蔵の日本関係資料	1,002
台南市立図書館館蔵日文旧籍	台南市立図書館所蔵の日本関係資料	2,184
百年高中典蔵日文旧籍	台湾内の高校所蔵の日本関係資料	2,242

表4のうち、「台南市立図書館館蔵日文旧籍」は、台南市立図書館が所蔵する日本関係資料をデジタル化したコレクションである。同館は1919年に設立された財団法人台南公館附属図書館の蔵書を受け継いでいる。このコレクションは、以前は国家図書館内あるいは台南市立図書館内でのみ閲覧可能であったが、2018年にオンライン公開に切替えられた。

「百年高中典蔵日文旧籍」は、国家図書館が2020年に開始したプロジェクト「百年教育文献資源合作数位化及台湾記憶系統共建共享計画」の成果となるコレクションである。現在も継続中のこのプロジェクトでは、台湾各地の歴史ある高校と協力し¹⁸、各校所蔵の日本関係資料をデジタル化している。

これらはいくまで一例であり、「台湾記憶」には現時点で全22種のコレクションが収録されている。うち18種(表4の3種も含む)はオンライン公開されており¹⁹、閲覧に際しアカウント登録も不要である。

「台湾記憶」の今後の目標としては、台湾内の公的機関・民間団体との協力を通じたデジタル化事業の進展、人工知能の活用(文

字・図版認識、メタデータの作成)が挙げられるとのことであった。

3 国立台湾図書館

国立台湾図書館(写真3)は、所蔵する豊富な台湾関係資料に基づく台湾学研究の推進を使命とするほか、障害者サービスの充実に注力しており、台湾における読書バリアフリー推進の責務を担う²⁰。同館の前身は台湾総督府図書館であり、上述のとおり台湾総督府図書館、南方資料館旧蔵書を引き継いでいる²¹。これら旧蔵書の一部は、以前は未整理のため同館オンライン目録で検索できない状態であったが²²、すでに整理は完了し検索可能とのことであった。



写真3 国立台湾図書館

同館は、2007年に「館蔵日文台湾資料数位典蔵計画」を策定して以来、日本関係資料のデジタル化を進めてきた。その成果はこれまで、「日治時期図書影像系統」「日治時期期刊影像系統」をはじめとする複数のデジタルアーカイブ上で公開されてきた。日本関係に限れば、直近10年間に表5のデジタルアーカイブ²³が公開されている。なお、同館のデジタルアーカイブの公開範囲は、①同館の利用者登録及びログイン後に本文画像が閲覧できるもの、②利用者登録を行わずともオンライン上で本文画像を閲覧できるもの、の2種類に大別される。

¹⁸ 「百年教育文献資源合作数位化及臺灣記憶系統共建共享計畫簽約儀式暨感恩會」臺灣記憶, 2020.1.16. <<https://tm.ncl.edu.tw/news?sid=96>>

「國圖與北一女中簽訂校史文獻資料數位化合作協議」臺灣記憶, 2024.10.17.

<<https://tm.ncl.edu.tw/news?sid=167>>

¹⁹ 公開範囲は以下のページにあるタブ「典藏内容」内の「數位物件開放範圍」に記載されている。

「關於本站」臺灣記憶 <<https://tm.ncl.edu.tw/about>>

²⁰ 新谷扶美子「国立台湾図書館の読書バリアフリーサービス」『アジア情報室通報』第22巻第1号, 20

24, pp.8-11. <<https://doi.org/10.11501/13540231>>

²¹ 同館の概要は以下の記事に詳しい。水流添真紀「100周年を迎えた国立台湾図書館」『カレントアウェアネス-E』No268, 2014.10.9. <<https://current.ndl.go.jp/e1615>>

²² 前掲注(1), 齊藤 p.3.

²³ 表5掲載分を含め、同館構築のデジタルアーカイブのURLは以下のページにまとめられている。

「臺灣學數位圖書館」国立臺灣圖書館 <<https://www.ntl.edu.tw/wSite/lp?ctNode=2780&ctUnit=912&BaseDSD=7&mp=1>>

表5 2015年以降に公開された日本関係デジタルアーカイブ

名称	公開年	公開範囲	収録対象	数量(点)
台湾政経資料庫	2015	②	政治・経済分野の資料(日本関係資料を含む)	4,206
台湾写真帖資料庫	2016	②	台湾総督府図書館旧蔵写真帖の掲載写真	10,215
館蔵旧籍日本文献 影像系統	2017	①	文学分野を中心とした戦前日本語書籍	948
館蔵南方資料影像 系統	2017	①	南方資料館旧蔵資料	12,568
日本国際交流数位 典藏資料庫	2024	②	同館と学术交流協定を締結している拓殖大学 からデジタルデータ形式で寄贈された資料	18,849

2016年には各デジタルアーカイブを横断検索できるサービス「数位典藏查詢系統」²⁴が公開されたが、画像閲覧には個別のデジタルアーカイブに遷移する必要があった。その中で2025年1月に公開されたのが「台湾学数位図書館」²⁵である。これは複数のデジタルアーカイブを統合したものであり、統合検索から閲覧までを同一プラットフォームで行うことができる。すでに「日治時期図書影像系統」、「日治時期期刊影像系統」及び「地図資料庫」を統合しており、他のデジタルアーカイブの統合も順次進めるといふ。

「台湾学数位図書館」の公開範囲は上述の①であり、本文画像の閲覧には同館の利用者登録が必要となる。ただし、機関単位の利用申請も受け付けており、IPアドレスによるアクセス制御方式により、当該機関内からの本文画像閲覧を可としている。これは台湾外の図書館等も対象である。

今後のデジタル化計画を尋ねたところ、2025年は南方資料館旧蔵書のデジタル化を進める予定であり、数量は一千数百冊程度とのことであった²⁶。

4 国立台湾大学図書館

国立台湾大学は台湾を代表する学術研究機関の一つであり、筆者が訪問した総図書館(写真4)をはじめ、学内に多数の図書館・図書室を有している。本稿ではこれらを「国立台湾大学図書館」と総称する。

国立台湾大学図書館は、台北帝国大学及び台北高等商業学校旧蔵書など多数の日本関係資料を所蔵している。早くからデジタル化も行っており、その成果はデジタルアーカイブ「数位典藏館」及び「数位化館蔵」を通じ提供されている。「数位典藏館」は2013年

の公開であり、2020年からはオープンソースのコンテンツ管理システム Omeka S を使用している。一方、「数位化館蔵」は同館の図書館サービスプラットフォーム「SLIM」²⁷(Ex Libris社のAlmaを採用)上に設けられており、2019年の試験公開を経て2020年に正式公開された。SLIM上に書誌データがある資料をデジタル化する場合、画像は書誌データに紐づけ「数位化館蔵」で、それ以外は「数位典藏館」で公開している。ただし、詳細なメタデータ提供やデータベース形式での利用提供のため、書誌データが存在する場合でも、あえて「数位典藏館」で公開するケースもあるとのことであった。



写真4 国立台湾大学総図書館

近年の日本関係資料デジタル化の状況を尋ねたところ、「植民地期の学者に関する資料」「植民地期の文献」「植民地期の档案」「その他」の4カテゴリーに沿って説明を受けた。その内、「植民地期の文献」の成果は表6のとおりである。

デジタル化資料の本文公開範囲は、著作権上の制約等を踏まえ、オンライン公開と施設内限定公開に大別される。表6からは、オンライン公開の資料も多いことが見て取れる。

²⁴ 数位典藏查詢系統 <<https://dass.ntl.edu.tw/>>

²⁵ 臺灣學數位圖書館 <<https://tsdl.ntl.edu.tw/>>

²⁶ その他、2023年から「日治時期図書影像系統」「日治時期期刊影像系統」所収モノクロ画像のカラー再撮影に取り組んでおり、対象数量は年に2、300点程度

とのことであった。

²⁷ SLIM 雲端圖書館自動化系統

<https://ntu.primo.exlibrisgroup.com/discovery/search?vid=886NTU_INST:886NTU_INST>

表 6 「植民地期の文献」 デジタル化の成果 (2019 年以降。公開済みコンテンツのリニューアルも含む)

コレクション名	公開年	公開先	公開範囲	収録対象	数量 (タイトル)
台北帝国大学卒業論文	2019	数位化館蔵	施設内	台北帝国大学の学士試験に提出された学士論文	218
特蔵台湾旧籍	2020	数位化館蔵	オンライン	1870 年～1945 年に出版された台湾関係資料	1,318
日治時期台湾期刊	2020	数位化館蔵	オンライン	植民地期に出版された雑誌類(巻号単位)	29
特蔵台湾期刊文献	2021	数位典藏館	オンライン	植民地期に出版された雑誌類(記事単位)	150
日本研究旧籍	2021	数位化館蔵	施設内	植民地期に出版された日本研究に関する書籍	32
日本史旧籍	2021	数位化館蔵	施設内	台北帝国大学国史(日本史)講座の図書	20
台湾総督府台北高等商業学校卒業論文	2022	数位化館蔵	施設内	台湾総督府台北高等商業学校の卒業論文	136
台大暨台北帝大図像資料庫	2024	数位典藏館	オンライン	校史関連刊行物に掲載された建築物等の図像	238
台湾生物論文集	2024	数位典藏館	オンライン	台湾の生物に関する研究資料(1935 年収集)	56
亜洲与東南亜研究資料	2024	数位典藏館	施設内	アジア関係日欧文資料	48
琉球資料(沖縄関係資料)	2024	数位化館蔵	施設内	琉球・沖縄関係資料(1935 年～1941 年収集)	42

5 国立公共資訊図書館

国立公共資訊図書館(写真 5)は全国の公共図書館を先導する役割を担っており、いち早く生成 AI を用いた図書館サービスを導入するなど²⁸、電子図書館に関する先進的な取組で知られる。また、植民地期の台中州立図書館旧蔵書 2 万点余りを引き継いでおり、台湾有数の日本関係資料所蔵機関でもある。



写真 5 国立公共資訊図書館

同館では、前身の国立台中図書館(2013 年に現館名に改称)時代から「日文旧籍数位化計画」に基づき日本関係資料のデジタル化に取り組んできた。その成果は同館のデジタルアーカイブ「数位典藏服務網」²⁹内のコレ

クション「日文旧籍」にまとめられており、日本関係資料 6,393 点がオンライン公開されている。なお、デジタル化されていない日本関係資料は、以前は遡及入力未了のため同館のオンライン蔵書目録で検索できない状態であったものの³⁰、現在は検索可能である。

「日文旧籍」所収資料のほとんどは同館所蔵であるが、表 7 のとおり、台湾内の大学・高校が所蔵する日本語資料も一部含む。原資料所蔵機関に関する情報はメタデータには含まれていないが、本文画像上のウォーターマークから判別可能となっている。

表 7 「日文旧籍」に所蔵資料が含まれる大学・高校

現在の校名	前身の校名(植民地期)
台北教育大学	台湾総督府台北師範学校
台南第一高級中学	台南州立台南第一中学校
台南第二高級中学	台南州立台南第二中学校
新竹高級中学	新竹州立新竹中学校
嘉義高級中学	台南州立嘉義中学校
国立台南大学附属高級中学	台南州立台南農業学校
台中市立台中工業高級中等学校	台中州立台中工業学校

²⁸ 2023 年に台湾で初めて生成 AI (ChatGPT) を活用した AI 図書館員を導入したのも同館である。

「国立公共資訊図書館協同東海大學打造 全國圖書館界首創的虛擬 AI 智慧館員登場」国立公共資訊図書館, 2023.12.28.

<<https://www.nlpi.edu.tw/ActivitiesDetailC001100.aspx?Cond=cbbdfd5b-bd10-4aa0-af96-06f9a6d1c771>>

²⁹ 数位典藏服務網 <<https://das.nlpi.edu.tw/>>

³⁰ 前掲注 (1), 齊藤 p.4.

今後のデジタル化計画を尋ねたところ、2018年実施の第13期「日文旧籍数位化計画」以降は日本関係資料に関する計画はなく、現在は戦後台湾刊行の中国語新聞『台湾民声日報』をデジタル化しているとの回答であった。

6 まとめと所感

本稿では、台湾における日本関係資料のデジタル化状況を紹介した。全容の紹介にはほど遠いが、それでも近年の進展の一端は示したように思う。各機関の担当者にインタビューする中で、筆者にとって特に印象深かったのは以下の3点であった。

(1) 他機関所蔵資料デジタル化の進展

複数の機関が他機関所蔵資料のデジタル化に取り組んでおり、台湾内に散在する日本関係資料へのアクセスが大いに改善している。その中心的な役割を果たしているのは国家図書館である。同館は、直近の2025年2月にも国立嘉義大学とデジタル化協定を締結しており、その協力範囲には同大学が所蔵する日本関係資料のデジタル化も含む³¹。デジタルアーカイブ「台湾記憶」を通じた資料公開の進展が期待される。

(2) 台湾外の図書館等に向けた「台湾学数位図書館」収録資料へのアクセス提供

国家図書館が推進するプロジェクトに「台湾漢学リソースセンター」(TRCCS)³²がある。台湾外の学術機関にTRCCSを設置し、漢学研究・台湾研究における協力体制の強化を図る取組である。この取組の一部として、参加機関に台湾研究に関する電子リソースへのアクセス権を提供しており、国立台湾図書館の「日治時期図書影像系統」「日治時期期刊影像系統」(現在は「台湾学数位図書館」に統合)所収資料へのアクセス権もその中に含まれる³³。

筆者は漠然と、日本の図書館等がこれらのデジタルアーカイブを機関単位で利用するにはTRCCSへの参加が前提だと理解していた。

ところが、国立台湾図書館でのインタビューによると、①以前からTRCCS経由でない利用申請を受け付けていた、②「台湾学数位図書館」も機関単位の利用申請が可能、とのことであり、予想外の驚きであった。

(3) OCRによるテキスト化技術への関心

各機関への訪問時にはNDLの事業を紹介する機会もあり、「国立国会図書館デジタルコレクション」³⁴における全文検索機能の充実や、「NDLラボ」³⁵及び次世代システム開発研究室の取組等について説明した。一様に大きな関心が寄せられたのは、2024年11月公開のOCRプログラム「NDL古典籍OCR-Lite」³⁶をはじめとしたテキスト化技術の提供であった。日本関係資料のテキスト化を進めている、あるいは検討中という機関もあり、NDL提供プログラムの活用が期待される。日本の利用者にとっても、日本関係資料のテキスト化が調査研究の進展にもたらす意義は大きいと思われる。今後の進展を注視したい。

今回の台湾訪問では、突然の依頼にもかかわらず、煩瑣な質問事項への回答から当日のインタビュー、帰国後の問合せに至るまで、各機関の皆様は快くご対応頂いた。末筆ながら、この場を借りてお礼申し上げたい。

(きのした まさひろ)



写真6 国立台湾図書館に隣接する公園内で多数見かけた台湾リス。気性が荒く、同館職員曰く「かわいく見えるのは最初だけ」とのこと。

³¹ 「國圖與國立嘉義大學簽署數位化合作協議」臺灣記憶, 2025.2.27.

<<https://tm.ncl.edu.tw/news?sid=171>>

³² 臺灣漢學資源中心

<<https://trccs.ncl.edu.tw/trccsc/trccsnewweb>>

³³ 日本最初のTRCCS設置機関である東京大学附属図書館では以下のページを公開している。

「TRCCS提供データベース利用案内」東京大学附属図書館アジア研究図書館上廣倫理財団寄付研究部門

(U-PARL), 2024.1更新. <<https://u-parl.lib.u-tokyo.ac.jp/japanese/blog43-column32>>

³⁴ 国立国会図書館デジタルコレクション

<<https://dl.ndl.go.jp/>>

³⁵ NDLラボ <<https://lab.ndl.go.jp/>>

³⁶ 「NDL古典籍OCR-Liteの公開について」NDLラボ, 2024.11.26.

<<https://lab.ndl.go.jp/news/2024/2024-11-26/>>